

私たちにできること 今年もとびます!

44回目の
意見広告

～ 抗い続けた政治家 齋藤隆夫 ～

齋藤隆夫をご存知ですか？

明治生まれの政治家で二・二六事件のあとの国会で肅軍演説をした人です。“1931年（昭和6年）三月事件、十月事件、1932年（昭和7年）五・一五事件そして1936年（昭和11年）二・二六事件”

「軍部当局は事件を『闇から闇へ葬る行為』を繰り返した事、立憲政治への介入を継続させた事」を質問し、陸軍を激怒させています。

1937年（昭和12年）国家総動員法案批判演説の時は「憲法に保障せられて居ります所の臣民の権利自由を～ 政府の独断専行に依って決したいからして～ 白紙委任状に盲判を捺してもらいたいと言うのか」と詰め寄っています。

そして1940年（昭和15年）、新聞では反軍演説と呼ばれる支那事変処理方針への質問演説で、齋藤隆夫は懲罰委員会にかけられ議員辞職する。3月7日である。3月25日「聖戦貫徹議員連盟」が結成され、近衛文麿が「政治新体制運動」を標榜すると7月6日～8月15日の間に各党一斉に解党し、新体制に合流。政党政治は終わり、10月12日に近衛首相を総裁とする「大政翼賛会」が発足する。

この過程を見ると、まるで齋藤隆夫が一人で立憲政治を支えてきたかのようです。

彼は反戦思想の持ち主でも反軍思想家でもありません。憲法に照らし合わせて正論を吐く政治家です。彼は大日本帝国憲法で軍部と戦ったのです。

私たちにできる事、まだまだたくさんありますよね！

（宮崎優子）



No.237号
2026年4月10日
発行人 宮崎 優子
事務局 日高 礼子
☎090-1166-4218
FAX097-544-7503

意見広告までの日程

- 5月23日(土) 13:00～ コンパル312 新聞広告デザイン会議
- 5月30日(土) 13:00～ ライフパル1F デザイン会議、集計・校正
- 6月20日(土) 13:00～ コンパル312 デザイン決定、集計・校正
- 7月 4日(土) 13:00～ ライフパル2F 賛同者名簿、集計・校正
- 7月17日(金) 意見広告正募集メチ
- 7月18日(土) 13:00～ コンパル4F 女性活動室 名簿集計・校正
- 以後 紙面校正 8月15日(土) 意見広告掲載

憲法記念日講演会

「[人の支配]か[法の支配]か」
～私たちの「不断の努力」が問われるとき～

たかさく まさひろ
講師>高作 正博さん
(関西大学法学部教授)

とき>5月3日(日) 10:00～12:00

ところ>大分県教育会館(大分市下郡)

参加費>入場無料

共催>平和憲法を守る会大分他

連絡先>097-534-3436
(大分共同法律事務所)

※4月1日から始まった9条改正反対署名を同封しました。(今秋提出予定とのこと)

住民の安全と平和な暮らしを守るために

大分市ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会の活動(2025年11月以降)

大分市敷戸地域において建設が進められている陸上自衛隊大分分屯地(鷲野)の大型弾薬庫問題をめぐり、敷戸市民の会は継続的な取り組みを行ってきましたが、2025年には、「戦争はいやだ!大分連続行動」として、他団体と共に過去の戦争加害の歴史を見つめ直し、現在の軍備拡張の動きと結びつけて考える取り組みが展開されました。

11月1日には「私たちがつくる東アジアの平和」の主催で、「日本軍は中国で何をしたのか」南京事件と大分」と題する講演会が開催され、地域における歴史認識と平和の課題を共有し、続く11月22日には「ミサイル搬入反対!大分総決起集会」を開催。沖縄や岩国をはじめ全国各地から参加者が集い、敷戸の問題が全国的課題として位置づけられ、12月14日の現地行動に向けた重要な前段となりました。

さらに12月6日には「南京虐殺から88年 大分証言集会」が開催され、被害当事者のビデオ証言や在日華僑から日本軍による加害が報告され、13日の「日本の戦争加害」南京大虐殺」講演会とあわせ、過去の戦争加害を直視する重要性が改めて確認

されました。これら一連の取り組みは、現在進行する軍備拡張の問題を歴史的文脈の中でとらえる基盤となりました。

こうした流れの中で、12月14日敷戸公園において「ミサイル搬入反対!現地集会・デモ行進」が開催され、約100名が参加。集会では弾薬庫建設の進捗や国際情勢が報告され、政党・市民団体の代表が「子どもたちの平和な未来と生活を守るため声を上げよう」と訴え、「敷戸にミサイルはいらない」「戦争を止める大分市民」と声を上げながら地域をデモ行進し、分屯地正門前では要請行動が行われ、ミサイル搬入中止を求める要望書を提出しました。

敷戸弾薬庫は2023年に明らかとなった全国14施設・約130棟の大型弾薬庫整備計画の第1号とされ、当初は2025年12月15日に完成予定とされていたのですが、その後理由



3/29 敷戸弾薬庫近くの住宅街をデモ

が明確に示されないまま2026年3月末へ、さらに5月末へと再延期されました。度重なる工期変更は長射程ミサイル配備を含む急速な軍拡政策への焦りと現場のリアルな進捗との間に齟齬が生じており、いかにこの軍拡計画が杜撰であるかを示しています。

2026年1月18日には「平和をめざすオール大分」主催の高市政権の退陣を求める集会・デモに参加し、軍拡路線への異議を表明。1月30日から31日にかけては、日本民主法律家協会による学習会と現地視察を受け、問題の法的・社会的側面について理解を深めました。

2月15日には医療生協東植田支部の学習会で映像資料の上映とともに弾薬庫問題を報告。会員以外も含め40名以上が参加し、地域住民の理解を広げました。

2月23日には熊本・健軍駐屯地の「ストップ!長射程ミサイル・弾薬庫 健軍駐屯地を平和の輪でつなごう!2026」集会に参加し、全国から集まった約1200人とともにミサイル配備反対の意思を示し、大分では2月28日にタニー・ネフセタイ氏の講演会を開催し、軍事に依らない平和構築の重要性が共有されました。

3月には、3月29日の現地集会に向けた広報活動のために、現地でのチラシ配布やスタンディングを通じ

て地域住民への直接的な呼びかけを強めるとともに、3/8・3/9の長射程ミサイル発射装置搬入反対熊本行動への参加や報道機関による敷戸現地取材を通じて問題が周知されつつあります。(3/15 BS朝日 曜スクープ)

3月29日には再び現地集会・デモおよび分屯地への要請行動を行い「敷戸にミサイルはいらない」という声を一層広げていきました。さらに地域内における立て看板の設置など、反対の意思を日常的に可視化する取り組みも計画しています。

大分県は敷戸弾薬庫(大分市)第2特科団およびミサイル連隊(湯布院)、西日本最大の日出生台演習場(玖珠・湯布院)、さらには大型輸送船が利用可能な港湾(大分・別府)などを抱え、九州における重要な軍事拠点となっています。こうした状況のもとで進められる軍備拡張は、地域社会に大きな影響を及ぼすものです。敷戸市民の会はこの問題を単なる地域課題にとどめず、日本の軍備拡張と東アジア情勢の中で捉え、過去の戦争加害の歴史と向き合いながら活動を展開してきました。今後も「沖西ネット」をはじめ全国の仲間と連携し、学習と対話、政府・自治体への情報開示請求、そして粘り強い市民行動を通して、平和な社会の実現に向けた取り組みを続けていきます。(葛城知明)

読んでみませんか？

「ぼくのがきこえますか」

日・中・韓 平和絵本／田島征三著 発行：童心社

NHKのEテレ「100分で名著」で紹介された絵本です。

「国のためにたたかえ」とみんなに励まされて戦争に行き、爆死してしまった「ぼく」の魂の叫び。

番組に出演していたイラン出身のサヘル・ローズさんは直接的な強い表現だと人は引いてしまうけれど、戦死した青年の魂の語りが心に響くと述べていました。



「飛べ！赤とんぼ 古庄ゆき子遺稿集」

古庄ゆき子著／園田 博・佐藤智美編 発行：(株)プランニング大分

大分県の女性史研究家、故古庄ゆき子さんは、赤とんぼの会の心強い仲間であり、会報「赤とんぼ」の4面コラムにも執筆してくださっていました。古庄さんが大分合同新聞「灯」欄に長年寄稿されたエッセイ（1977～1994）から、ご本人と彼女をよく知るお二人が編纂した遺稿集です。

サハリンに生まれた日本の中の少数民族出身の青年がたどった戦中戦後の話、敗戦直後に日本政府主導で作られた公娼のこと、ドイツ製核シェルターと北島三郎さんの言葉等々、どこを開いても戦争や人権、ふるさとにまつわる興味深いエッセイが登場します。また「赤とんぼ」の始まりについても書いてあります。

問合せは 090-1166-4218（日高）まで



赤とんぼの会 2025年 会費会計報告

収入

(単位：円)

前年度繰越	242,727	
会費	153,000	(122人)
利息	150	

合計 395,877

支出

印刷費	77,550	会報235号～236号
通信費	72,185	会報送料
家賃	3,000	2024年10月
意見広告・協力金	27,000	市民意見広告・日出生台他
事務費	3,313	封筒、インク

合計 183,048

収入 395,877円 - 支出 183,048円 = 次年度繰越 212,829円

2025年 43回意見広告 収支決算報告

収入

(単位：円)

意見広告 2,682,229 2,481人(うち匿名372人)

合計 2,682,229

支出

広告料	2,735,265	大分合同、朝日、毎日、西日本
印刷費	89,100	チラシ封筒など
郵便手数料	11,400	振替用紙印字、振替通知手数料
事務費	2,971	封筒、インク

合計 2,838,736

収入 2,682,229円 - 支出 2,838,736円 = 次年度繰越 -156,507円

—監査報告—

意見広告費帳簿、領収書等を監査した結果、適正に処理されていた事を認めます。

2025年10月4日

河上レゲミ

九条は生きて働いている

驚いた。できるだけ早く防衛3文書の書き換えを行いたい、と言っていたあの高市首相が国会答弁で「憲法九条がありますから」と答えている。日米首脳会談で米国大統領から対イラン戦争への協力を求められてどう応えたのかと問われて。

よかったねえ。防衛3文書、書き換えてなくて。ついでに「協力しないのなら、アメリカは日本を守らない」と言われたら、「仕方がありません。どうぞそうしてください。」と首うなだれたら良かったのに。(米軍基地があちこちにある故に、危険にさらされている日本の現実を知ってが知らずか、守ってやっているとおっしゃるトランプとの) 会談では言われなかったのかな。

したたかな外交をしてけると言っていて、高市首相は山ほどのお土産を持って訪問し、トランプ大統領の胸に顔をうずめて恭順の意を示し、精いっぱいのリップサービスをした。何より経済効果を優先する現米国大統領は「フムフム」と一応の評価はしたけれど「さらなるステップアップを」と要求が続いている。いつまたホルムズ海峡へ艦船を、となるか分からない。

でも国と国との付き合いで最後の頼りとするところは憲法だ。そのために法律はある。たとえ相手がトラ

ンプ大統領でも。今回のことでそのことが図らずも証明された。だからこそ力にものを言わせたい人たちは何が何でも九条を外したがっているのだと思う。

本当に換骨奪胎というほどポロポロにされて有名無実になっているのではと絶望的な思いでいたが、憲法は生きて働いている。国民投票で変えられない限り。

非戦は日本の国是なのだから、「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と決めたのだから。

とは言え日米同盟を基盤に国際社会と付き合っただけで、今までもそうであったようにこれからも、アメリカと一緒に戦いやすいように法律を変えるよう要求してくるのだから。

ロシア対ウクライナ、イスラエル対パレスチナ、アメリカとイスラエル対イラン、世界のあちこちで戦火が続いている。どうしようもなく力だけがものを言う世界になりつつある。この国はもうそろそろアメリカ一辺倒をやめて、戦いを止めるよう働き掛ける側に立たないと、ポロポロにされても生きて働いている憲法九条に申し訳が立たない。もうこれ以上命を犠牲にしないために。弱いものが生きられない世界にしないために。

(寄村一平)

布地祐仁講演会

「日出生台・湯布院を戦争の拠点にさせない!」

とき>5月24日(日) 13:30~

ところ>湯布院公民館 (ラックホール) 3階 小ホール

参加費>入場無料

問合せ>kuzilakun@gmail.com 鯨津(ときつ)

「松元ヒロ ソロライズ」

とき>5月29日(金) 18:30開演

ところ>J:COMホルトホール大分 小ホール

前売>一般 2,800円
中・高生 1,500円

当日>空席がある場合500円増し

主催>ヒロさんを年に一度は観たい会

連絡先>090-1081-8059 (三浦)

市民連続講座2026

「HPVワクチン薬害被害者として生きるということ」

梅本 美有さん

「薬害訴訟で訴えていること」

梅本 邦子さん

とき>6月13日(土) 13:30~

ところ>コンパル400号室

資料代>500円(大学生以下無料)

主催>市民連絡会おおいた

連絡先>070-4088-0423 (永山)

「スパイ防止法 学習会」

講師>小田 憲郎さん

とき>4月19日(日) 13:30~15:30

ところ>コンパル305会議室

参加費>入場無料

連絡先>090-8910-4511

大分県母親大会

「食を通して考える ぐらし・いのち・平和」

講演者>いんやく とちや 印鑰 智哉さん

とき>7月26日(日) 10:00~

ところ>コンパル 3F 多目的ホール

参加費>1,000円

連絡先>097-568-8931 (大分県母親大会実行委員会)

平和のための戦争展

ドキュメンタリー映画上映 松村克弥監督トーク

「ぼくは風船爆弾」

とき>8月2日(日) 13:30~

ところ>コンパル文化ホール

料金>一般 1,000円
高校生以下 無料

主催>「平和のための戦争展(大分)実行委員会

連絡先>090-1088-1563 (神戸)

声に出して読んでみましょう 憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権否認」

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒187-0084 大分市六坊北町3番52号(変わりました)

TEL>0900(1166)4218 FAX>097(544)7503

ホームページ>http://aka-tombo.com/ (郵便振込) 015400012160